

CONTENTS

第 24 回研究大会のご案内-----	(1)	会費納入について-----	(3)
会告: 会員資格について-----	(3)	新規入会者(2018年11月~2019年4月)-----	(4)
寄贈図書(2018年11月~2019年4月)-----	(4)	機関誌『東アジア近代史』論文投稿の募集-----	(4)
会報の電子配信への変更について-----	(4)	事務局移転のお知らせ-----	(4)

第24回研究大会のご案内

今年度の研究大会は、7月6日(土)・7日(日)の両日、学習院大学(目白キャンパス)を会場として開催いたします。今大会は自由論題報告(午前)とシンポジウム「第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容」(午後)をそれぞれ2日に分けて行います(今年は歴史資料セッションは開催いたしません)。総会は6日17時より大会と同会場で行います。以下、大会のプログラムとシンポジウムの趣意文を掲載いたします。会員の皆様には、ふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

プログラム

場所: 学習院大学南3号館2階201教室 参加費: 会員1000円・非会員1500円

◆ 1日目(7月6日(土))

受付開始 10時

開会挨拶 10時30分~10時40分

檜山幸夫氏(東アジア近代史学会会長)

《自由論題報告》 10時40分~11時40分(1人報告25分・質疑5分)

司会: 柏木一朗氏(法政大学)

外地における「内地人」を対象とした徴兵制——台湾総督府を事例として——

長瀬大樹氏(中京大学・院)

北清事変における日本の「軍夫」と「輜重輸卒」

藤岡佑紀氏(明治大学・院)

休憩・昼食 11時40分~13時

理事会 11時50分~12時50分(北2号館10階大会議室)

シンポジウム「第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容」(1日目) 13時~17時

趣旨説明 13時~13時10分 小池 求氏(亜細亜大学)・佐々木雄一氏(明治学院大学)

第I部「知識人・運動の視点から」 13時10分~15時10分(1人報告35分・質疑5分)

司会: 小池 求氏

戦間期における阪谷芳郎と岩永裕吉の認識変容——帝国主義と戦争違法化の狭間で——

高光佳絵氏(千葉大学)

第一次世界大戦後におけるアジア知識人の言論空間——在京台湾人留学生の執筆活動を通じて——

紀 旭峰氏(早稲田大学)

第一次世界大戦後のファン・ボイ・チャウの思想変化と新たなベトナム民族運動の勃興

今井昭夫氏(東京外国語大学)

休憩 15時10分~15時30分

コメント 15時30分~16時

小野寺史郎氏(埼玉大学)・小野容照氏(九州大学)

総合討論 16時～17時

司会：小池 求氏・佐々木雄一氏

総 会 17時～17時30分

懇親会 18時～20時（北2号館10階大会議室）

懇親会会費：一般6000円 院生・学生3000円

◆2日目（7月7日（日））

受付開始 10時

《自由論題報告》 10時30分～11時30分（1人報告25分・質疑5分）

司会：高江洲昌哉氏（神奈川大学）

帝国内航路をめぐる日英交渉——内地大連間航路を事例として——

吉田ますみ氏（広島修道大学）

1930年代の日中「経済提携」——日本側アクターの構想を中心に——

矢野真太郎氏（早稲田大学・院）

休憩・昼食 11時30分～12時30分

シンポジウム「第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容」（2日目）12時30分～17時

第Ⅱ部「国家・統治の視点から」12時30分～15時10分（1人報告35分・質疑5分）

司会：佐々木雄一氏

国際主義といかに向き合うか——文明国標準の変質と日本外交——

酒井一臣氏（九州産業大学）

「武断」と「文化」の狭間にあるもの——朝鮮総督府の「文化政治」を再考する——

永島広紀氏（九州大学）

中国の市場・貿易を通じて見る第一次世界大戦前後の変容と連続性

木越義則氏（名古屋大学）

多義化する「新外交」——東アジアにおけるウィルソン主義と国際連盟観の対立——

帯谷俊輔氏（日本学術振興会）

休憩 15時10分～15時30分

コメント 15時30分～16時

麻田雅文氏（岩手大学）・川島 真氏（東京大学）

総合討論 16時～17時

司会：小池 求氏・佐々木雄一氏

閉会挨拶 17時～17時5分

檜山幸夫氏（東アジア近代史学会会長）

シンポジウム「第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容」趣旨文

本学会ではこれまで、第一次世界大戦と東アジアとの関係について3度議論してきた。第一次世界大戦勃発100周年にあたる2014年度研究大会シンポジウム「第一次世界大戦と東アジア世界の変容」において、大戦勃発直後の東アジアの動向が議論され、2017年度研究大会シンポジウム「第一次世界大戦下の東アジアと世界」においては、大戦の展開期および終焉期を中心に、東アジア諸地域が大戦によって生まれた諸現象にどのように対応したのか、欧米の参戦国の視点も入れて報告がなされた。2016年度研究大会においても、ミニシンポジウム「第一次世界大戦期の諸問題」が開催された。

2019年度のシンポジウムは、2017年度のシンポジウムが対象とした時期をさらに広げ、第一次世界大戦後の世界を主たる対象とする。第一次世界大戦後、それまで国際社会の前提となっていた枠組みや思想・理念は大きく変化した。少数の大国間で成立している理屈

や関係性ばかりが国際社会を規律するものではなくなった。それを象徴するのが国際連盟の創設であり、国際連盟は、従来は従属的な地位にあった小国が国際社会において政治的に活動する空間を提供し、新たな国際秩序の構築に参加する可能性が開かれた。そうした国際秩序の変容の背景には、ウィルソン主義、社会主義のように既存の国際社会の枠組みを揺さぶる思想の存在があった。この新しい思想は、政府レベルの国際認識や外交政策だけでなく、植民地エリート・知識人などの思想や活動を刺激し、彼ら・彼女らの国際秩序観の変容に対しても大きな影響を与えた。

大戦はさまざまな領域に変化をもたらし、それらは相互に影響し合った。対外政策や植民地統治の転換もあれば、各国の内政・経済の変動もある。平時に戻った世界において、境界を越える人々の移動も活発化した。地域が注目された時代でもあり、戦後のヨーロッパにおけるパンヨーロッパ主義や東アジアにおけるアジア連帯論、さらに国際連盟の非常任理事国枠が地域別になされたことなども地域をめぐる議論に含まれるだろう。

2019年度のシンポジウムにおいては、大戦後の以上のような特徴を意識し、大戦中から大戦後にかけて世界的に成立してきた体制や思想のなかで東アジアはどのような姿となったのか、1920年代を中心に論じる。その際、国際社会、国家、エリートといったさまざまなレベルとその相互関係を考え、大きく2つの観点に分けて議論する。

第Ⅰ部では、3名の報告者が知識人や運動の視点から論じる。高光佳絵氏が日本人エリートの世代の違いに注目し、戦後秩序認識の変容について論じ、紀旭峰氏が在京台湾人留學生の執筆活動からアジア知識人による脱境界的言論空間の創出を考察する。今井昭夫氏がファン・ボイ・チャウを事例にその思想の変化とベトナムの民族運動の関係について報告する。以上の3報告に対して、小野寺史郎氏と小野容照氏がコメントを行う。

第Ⅱ部では、4名の報告者が国家や統治の視点から論じる。まず日本に関して、酒井一臣氏が文明国標準の変質という観点から新外交と向き合う日本の外交を分析し、永島広紀氏が朝鮮総督府の文化政治を再検討するかたちで第一次世界大戦後の日本の植民地統治について論じる。そして木越義則氏が中国の市場・貿易の観点から第一次世界大戦前後の変容と連続性を検討し、帯谷俊輔氏が国際連盟という新たな機構が成立したなかでの東アジアの秩序について論じる。以上の4報告に対して、麻田雅文氏と川島真氏がコメントを行う。

今回のシンポジウムを通じて、世界の変化と連動して東アジアが変わる面や東アジアにおける新たな動き、他方で第一次世界大戦を経てもなおそれ以前からの連続性が目立つ部分など、総合的に「第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容」を捉えたい。

大会シンポジウム実行委員会

会費納入について

会費納入のお知らせと振込用紙（ゆうちょ銀行）の送付は、昨年度までこの時期に発行していましたが（ニューズレター）に同封して行っていたのですが、今号より会報を電子配信することになったため、今年度より後日の機関誌『東アジア近代史』の送付時に同封させていただきますことになりました。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

会告：会員資格について

4月の常任理事会において、3月末日をもって会費3年度分未納者の退会承認を行いましたことをご報告申し上げます。

新規入会者（2018年11月～2019年4月）

下記の方の入会申請を常任理事会で承認しました（順不同、敬称略）。

矢野真太郎（早稲田大学大学院）、大西翔（三菱UFJ銀行）、湊田進一（新潟市立女池小学校）、西川守（大正大学大学院）、吉田ますみ（広島修道大学）

寄贈図書（2018年11月～2019年4月）

李盛煥・木村健二・宮本正明編著『近代朝鮮の境界を越えた人びと』（日本経済評論社、2019年）、U-PARL編『世界の図書館から—アジア研究のための図書館・公文書館ガイド—』（勉誠出版、2019年）、林采成『飲食朝鮮—帝国の中の「食」経済史—』（名古屋大学出版会、2019年）

機関誌『東アジア近代史』論文投稿の募集

機関誌『東アジア近代史』第24号（2020年6月刊行予定）に掲載する独立論文を募集いたします。ふるってご投稿ください。なお、投稿締切は2019年10月末日、投稿先および問い合わせ先は本会事務局（下記奥付参照）となっております。

会報の電子配信への変更について

本学会の会報（ニューズレター）はこれまで紙媒体での発行と送付を行ってまいりましたが、前号にて予告しましたとおり、今号よりメールアドレスをご登録の会員には、電子版（PDF版）をメール配信させていただくことになりました。但し、紙媒体での送付をご希望の方にはお送りいたしますので、至急、下記事務局までお知らせください。

事務局移転のお知らせ

本会事務局の所在地が本会報の発行日より、これまでの麗澤大学櫻井研究室から亜細亜大学国際関係学部青山研究室に移転いたしました。住所は下記奥付をご参照ください。

〔編集後記〕

今号は7月6・7日に開催されます研究大会のご案内が中心となっております。今年の大会は開催時期が昨年までの6月下旬と異なっておりますが、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。（事務局）

東アジア近代史学会会報 第46号

2019年4月30日発行

発行 東アジア近代史学会 会長 檜山 幸夫

編集 東アジア近代史学会会報編集委員会

東アジア近代史学会事務局 事務局長 青山 治世

〒180-8629 東京都武蔵野市境5-8 亜細亜大学国際関係学部青山研究室内

E-mail modern_east_asia_jm@hotmail.co.jp ホームページ <http://www.jameah.gr.jp/>